

## 令和7年第2回江別市総合教育会議

1 日時 令和7年12月19日（金）午前10時00分～午前11時30分

2 場所 公室

3 出席者

(構成員) 江別市長 後藤 好人  
江別市教育委員会  
教育長 黒川 淳司  
委員 麓 美絵  
委員 新館 忠義  
委員 兼子 弘詔  
委員 松田 久美

(総務課)

教育部総務課参事 伊藤 麻美  
教育部総務課施設係長 横山 正明

(学校教育支援室)

教育部学校教育支援室長 小椋 公司  
教育部学校教育支援室学校教育課長 稲田 征己  
教育部学校教育支援室学校教育課学校教育係長 坂口 匡志  
教育部学校教育支援室学校教育課主査 尾形 知則

(事務局)

教育部長 佐藤 学  
教育部次長 新山 千穂  
教育部総務課長 山崎 浩克  
教育部総務課主幹 清水 孝則  
教育部総務課総務係長 本田 拓也

4 議題

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 江別市立小中学校における生成AIの利活用について
- (3) 令和8年度教育施策及び予算について

## 会 議 錄

後藤市長	<p>定刻になりましたので、ただいまより令和7年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。本日の議題は、「全国学力・学習状況調査の結果について」、「江別市立小中学校における生成AIの利活用について」、「令和8年度教育施策及び予算について」の3件でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、議題の（1）「全国学力・学習状況調査の結果」について、事務局から報告をお願いいたします。</p>
稲田学校教育 課長	<p>それでは、資料1についてご説明いたします。</p> <p>全国学力・学習状況調査は、毎年全国の小学校6年生及び中学校3年生を対象として行われております。この資料は平成27年度から令和7年度までの学力調査結果について、国語及び算数・数学の平均正答率を、全国平均をゼロとして比較した値をグラフ化し、あわせて江別市の教育施策のうち、学校教育関連の主な取組を表示したものです。</p> <p>まず、上段は小学校の推移であり、青い点線が国語、赤い実線が算数です。これによりますと、江別市の小学生は、算数より国語の方を得意とする傾向にあるようです。また、令和以降は国語・算数ともに全国平均を上回る状況が続いており、全体的に学力は向上傾向にあることがうかがえます。</p> <p>続いて、下段の中学校のグラフをご覧願います。中学校では、小学校ほどはっきりとした傾向ではありませんが、若干国語より数学の方を得意とする傾向が見られます。なお、全体としては、平成から令和にかけ、ほぼ一貫して全国平均を上回る状況となっております。</p> <p>この10年間江別市では、多機能大型ディスプレイの整備やタブレット端末の整備、小中一貫教育の導入やAIドリルの導入など、様々な取組を進めて来ましたが、今後におきましても、引き続き児童生徒の学習環境の整備に努めていきたいと考えています。</p> <p>このように、学力に関しては全体的に良い結果が続いておりますが、これはあくまでも市の平均値です。学力に課題の多い学校、学習に困難を抱える児童生徒も居りますことから、引き続き、一人ひとりに応じた、きめ細かな指導・支援を行っていきたいと考えております。</p> <p>次に、資料2をご覧ください。</p> <p>全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果から、2つの設問に関する令和元年から7年度までの傾向をグラフにしたものです。</p> <p>まず、上段の設問1「自分にはよいところがあると思いますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小学校・中学校ともに上昇傾向にあることがうかがえます。青い点線の小学校では、コロナ禍で様々な活動が制限された時期には減少しましたが、直近の3年間で大きく上昇しました。一方、赤い実線の中学校では、令和7年度は6年度から2.4ポイント減少しましたが、令和元年との比較では15ポイント以上増えています。</p> <p>次に、資料下段の設問2「将来の夢や目標を持っていますか」では、小学校と中学校で大きな差があります。小学校は先ほどと同様にコロナ禍で少し減少しましたが、直近3年間では上昇に転じ、肯定的な回答が8割を超えていました。</p> <p>一方、中学校では65~67%程度で推移しており、なかなか上昇できません。特に令和7年度は65.1%と令和になって二番目に低い数値となっています。今年の中3は、令和4年度の小6で、令和では最も低かった77%の世代です。小学校の時のコロナの影響が中学校にまで続いているのかもしれません。</p> <p>市では、小中一環教育を始めとする様々な施策を行っているほか、各学校においても資料下部に例示したような教育活動が行われております。今後も、全小中学校一体となって、自己有用感の高揚や将来の夢を持てるような教育活動に取り組んでいく必要があります。</p> <p>続いて、資料別冊としてお配りしております、「令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果について」をご覧願います。こちらはページ数が多いため、要点のみご説明させていただきます。</p> <p>1ページ中段、3の調査の内容ですが、令和7年度は国語、算数・数学、理科の</p>

	<p>調査が行われ、中学校の理科は、文部科学省のC B Tシステムによりオンライン方式で実施されました。次に、6の調査結果の解釈等に関する留意事項ですが、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一侧面であることなどを踏まえる必要があります。</p> <p>2ページをお開き願います。こちらには、結果の概要として、教科に関する結果の概要と、児童生徒質問紙及び学校質問紙に関する結果の概要を記載しておりますので、後程ご確認願います。</p> <p>次に、3ページから9ページにかけましては、各教科の結果について記載しております。ここでは、教科ごとに、正答数の分布グラフ、江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率及び学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率の表を記載し、あわせて、今後の指導の参考になるよう「正答率の低い設問及び学習指導の改善点」を記載しております。</p> <p>資料8ページをお開き願います。中学校理科は、今年度オンライン方式で行われ、その結果は、I R Tという国際的な学力調査等で採用されるテスト理論により分析されています。問題構成につきましては、生徒一人あたり、公開問題が10問、非公開問題が16問出題されており、公開問題に係る分析結果は表に記載のとおりです。なお、公開問題10問の内、設問1の6問は市内8中学校共通となっております。</p> <p>次に、10ページから12ページにかけては、「児童・生徒質問紙」として、児童生徒が生活習慣や学習習慣等について回答した結果について、特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組を四角で囲んだ部分に記載しております。なお、表中の増減比につきましては、5ポイント以上プラスの場合は太字で、5ポイント以上マイナスの場合は網掛けで表示しております。</p> <p>次に、13ページから15ページにかけては、「学校質問紙」として、学校の教育活動等について学校ご回答した結果について、特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組等を四角で囲んだ部分に記載しています。</p> <p>16ページ以降は質問紙調査の結果について詳細を記載しております。 後程ご確認くださいますようお願ひいたします。</p> <p>議題1に係る資料の説明は、以上です。</p>
後藤市長	<p>ただいま、事務局から、本年度の学力調査の結果について説明がありました。 委員の皆様から、本市の子どもたちの学力の状況や、児童生徒質問紙の結果などについて、ご意見やご感想はございませんか。</p>
新館委員	<p>全国学力・学習状況調査の結果について、令和7年度の学力調査では、小学校はすべての教科で全国平均を上回る素晴らしい結果となっています。昨年は小学校の算数だけが僅かに全国平均を下回っていたと記憶していますが、今年はしっかりと平均以上の素晴らしい結果を出しています。中学校に関しては、数学だけが僅かに全国平均を下回る結果ですが、本当に僅かであり、昨年同様に努力の跡が感じられ、頑張っているのではないかと思います。これは行政をはじめ教育関係者の日々の努力や熱意が、このような結果をもたらしていると思いますし、子どもたちが努力の成果を出せる環境をしっかりと整えていただいているからこそだと考えます。教育関係者の日々のご尽力に、大変感謝を申し上げます。</p> <p>しかしながら、皆が皆、勉強が得意というわけではありません。他に夢中になってやっているものがあると思います。スポーツや文化系、音楽系、または部活動以外の趣味など、真剣になって打ち込んでいるものがそれもあると思います。あくまで私個人の意見としては、たとえ学力が少々劣っていても、一生懸命に夢中になれるものがあればいいと思っています。その中で社会性や公共性を養っていくことも十分にできると思います。勉強ができることに越したことはありませんが、私はこれまでに、いくら勉強ができても社会に対応できない大人を数多く見てきました。ですので、伸び悩んでいたり学力が低い子どもたちには、決して学力だけで引け目を感じてほしくないと思っています。それが、調査にある自己肯定感につながるのではないかと思います。</p> <p>ただ、児童生徒への質問の中で気になる回答がありました。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という質問に対し、割合が全国平均を上回っているとはいえ、そう思っていない児童が一定数いるということです。正直、とても悲しい気持ちになりました。いじめを受ける人が一体どれだけ傷つき、つらい思いをしないといけないの</p>

	<p>かを考えると、理由がどうであれ、いじめは絶対に許されないことです。幸いにも、次の「人が困っているときは、進んで助けている」の質問では高い割合となっています。困っている人に手を差し伸べ、助け合い、いじめが限りなくゼロに近い結果になることを期待するとともに、尊重し合える人に成長してもらえることを願っております。</p> <p>以上です。</p>
後藤市長	<p>ただいま新館委員から、学力の面では教育環境が非常に良い形で表れているのではないかとのお言葉をいただきました。ありがとうございます。また、何か打ち込めるものがあった方がいいのではないかとの言葉もいただきました。社会にきちんと適応できる大人になることが最も大切だと私も思います。そうした中で、いじめの問題については、数字的に見ると大分良くなっているものの、表に出ていないだけで隠れている部分もあるのではないかと思います。その一方で、多くの子どもたちが助け合いをすると回答していますので、その助け合いの輪をどんどん広げていって、「いじめは駄目だよね」という雰囲気の醸成に寄与していくことを私も期待したいと思います。</p> <p>ほかにご意見ございませんか。</p>
松田委員	<p>資料2の「児童生徒質問紙結果の推移（R1～R7）」について、設問1への回答結果と、設問2への回答結果が記されており、いずれも、「自己肯定感」に関する質問項目であると思われますが、この二つの質問項目への回答結果をピックアップし、それぞれのR1年からR7年までの推移を表にまとめたことには理由がございますか。</p>
小椋室長	<p>期間については、これまでの推移を継続的に確認できるよう、近年のデータを集めたものです。そして設問1「自分には、よいところがあると思いますか」、設問2「将来の夢や目標を持っていますか」については、市の総合計画の中の「えべつ未来戦略」で掲げている「子どもが主役のまちをつくる」という目標の達成度を測る大切な指標となっているものです。また、「学校教育基本計画」の中でも重要な指標として位置付けていますので、教育委員会としましても、子どもたちの自己肯定感の変化を継続して追っていく必要あるものとして、今回ピックアップしたものです。</p>
松田委員	<p>ありがとうございます。もう一点お願ひします。</p> <p>調査結果を踏まえて、「何と、どう関わっているか」、「何が影響しているのか」といった分析を行い、その上で「調査結果を、その後にどのように活かしていくか」について、どのように分析されたかについてもお聞かせいただけますでしょうか。</p>
稻田学校教育課長	<p>例えばですが、小中一環教育では異学年交流が活発に行われており、夏休みに中学生が小学生の学習をサポートする場面もあります。こうした際には、「小学生に頼りにされて嬉しかった」という感想も中学生から聞こえており、こうした経験は中学生の自己肯定感の向上につながる側面があると考えています。また、それ以外にも各学校では日常の教育活動の中で、教員が子どもたちの良いところを認め、励まし、褒めることや、特別活動等を通じて子どもに達成感を味わわせる経験をさせることを意識的に行ってています。さらに細かい部分では、子どもたちに、自分で選択させ、自分で決定させることを様々な場面において行っています。これらが「自分には良いところがある」といった数値の上昇につながっている一つの要因ではないかと考えています。</p> <p>一方、将来の夢や目標に関しては、小学校で高かった数値が中学校で下がってしまいます。その要因として、成長に伴って自分なりに他者と自分とを比較できるようになり、夢の実現が難しいと考えるようになったり、あるいは、中学3年生は目前に控える高校受験で頭が一杯になり、その先の将来を考える余裕がないからではないか、このような話を指導主事が行うヒアリングの際に各学校の先生達とお話ししながら分析しています。こうした数値を向上させるための取組として、キャリア教育で、子どもたち自身が学びや活動の記録を蓄積し、自分自身の成長を振り返ることができるキャリアパスポートを積極的に活用することや、市内事業所のご協力をいただき中学2年生が職場体験をするなど、こういった活動を充実させることが必要だと考えています。さらに、専門的知識を持った社会人による講演やプロの音楽家の演奏を目の前で観たり聴いたりする経験など、日常の教育活</p>

	<p>動の中に潤いを与えてくれるような時間を作り、学力向上のみならず子どもたちの人生をより豊かにするような取組みを行い、夢を持てる子どもの数を増やしていきたいと考えています。いずれも短期間で成果が上がるような取組みではありませんが、時間を掛けて着実に前進させていきたいと思っています。</p>
松田委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>形式的な言葉を概念的に捉えるのではなく、実際の教育活動の中から学び取る姿勢を大事にされていることをうかがえました。また、他者と自分との比較が始まるとのお話がありましたが、劣等感を抱き始めるところが始点となることもあるということで、とてもよく理解できました。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、新館委員と松田委員から、それぞれ学校環境や人間形成の重要性、自己肯定感のお話などもいただきました。それらを踏まえて、黒川教育長から今回の分析に関する見解や、今後に向けたお考えなどをお聞かせいただければと思います。</p>
黒川教育長	<p>全国学力・学習状況調査における学力点に関しては、例年、小中学校ともにほぼ全国平均を超えており、優秀な成績を収めていることを大変うれしく思います。これは一概に一つ二つの要素によるものではなく、たくさんのことが重なった成果だと思います。江別市に転勤してきた先生方からは「子どもたちが授業に臨む姿勢が素晴らしい」という声が多く聞かれます。一生懸命に学ぶことができていることに驚く先生がとても多く、これが江別市の子どもたちの特徴だと思います。また、先ほど教育関係者の皆様のおかげというお話をいただきましたが、私自身は、江別市がいち早く電子黒板を導入したことや、退職した先生を学習サポート教員として活用するなど、他市に先駆けて取組みを進めたことが、子どもたちの力を伸ばす大きな要因になっていると感じています。それが今では、学生ボランティアをはじめとして、多数の学習支援員を雇用するなど、機器面の環境整備や人的な環境整備を進めていただいている市のバックアップが大きな力となっており、大変感謝しています。それに応えるように各学校も日々努力を重ねてくれていると感じています。</p> <p>また、先ほど新館委員からご指摘のありましたいじめの設問についてですが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という設問に「思う」と回答した割合が全国よりも10%くらい高く、江別市の子どもたちのいじめに対する意識は高いと思っていますが、そう思っていない児童も一定数あります。校長会議や教頭会議の場で「そう思わない児童生徒の割合をゼロにしたいと思いませんか」と聞くと、皆さん大きく頷き、「『いじめは本当に駄目だよね』などの子も心から思うような学校を作りたい」と話してくれます。ですが、これがなかなか進みません。これはやはり、小学校1年生の時から丁寧に繰り返し指導することで「人を傷つける行為は本当に許されないこと」という意識を育てていく必要があります。また、中学校になると、先ほど市長がお話されたように、目に見えないSNS上で悪口を言うなどのいじめがなかなかゼロにならない現実があり、油断せず引き続きしっかりと指導を続けていかなければならぬと思っています。</p> <p>いずれにしても、学力点にとらわれすぎることなく、学力点も非常に重要である一方、人としての優しい心や正義感を持ち、伸び伸び生き生きと、夢中になって学び続ける子どもを育していくため、教育委員会は頑張っていかなくてはならないと思っています。</p> <p>以上です。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、教育長からも意見をいただきました。江別市ではこれまで全国学力・学習状況調査の結果などを参考に、様々な施策に取り組んできました。AIドリルや自動採点システムの導入もその一つです。こうしたデジタルツールを活用し、まずは子どもに向き合う時間を確保することに取り組んできました。こうしたデジタルツールや小中一貫教育の導入などにより、できる限り教育環境を整えていきたいと考えています。どこまでいっても100点にはならないのかもしれません、できるだけ良い教育環境を整えることで、多くの先生方にも頑張っていただけますし、それが子どもたちの成長に繋がると信じ</p>

	<p>ております。江別市は子どもが主役のまち宣言をしております。子どもたちの可能性を大きく伸ばすための大きな柱の一つが教育だと思っています。是非、今回の全国学力・学習状況調査の結果を十分に分析していただき、子どもたちの学力向上、さらには人間としての成長に努めていただきたいと思います。そのためには、市長部局としても教育環境の充実に共に努めていかなくてはいけないと思っています。以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に議題（2）の「江別市立小中学校における生成AIの利活用について」に移ります。まずは、江別市立小中学校における生成AIの利活用に向けた取組みについて、配付資料により事務局から説明をお願いします。</p> <p>稻田学校教育課長 議題（2）江別市立小中学校における生成AIの利活用についてご説明いたします。</p> <p>資料3をご覧願います。江別市では、生成AIは様々なリスクを含む技術であることを踏まえつつ、文科省作成の「生成AIの利活用に関するガイドライン」に基づき、段階的に利活用を進めています。恐れ入りますが、先に資料4によりガイドラインの説明をさせていただきます。こちらは、昨年12月に文科省から公表された「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」の概要であり、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するために、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントなどをまとめたものです。</p> <p>1点目として、生成AIとは、文章・画像・プログラム等を生成できるAIモデルに基づくAIの総称であり、様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的対策も進展しています。</p> <p>2点目、基本的な考え方として、最後は人間が判断し責任を持つことが重要で、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するとともに、生成AIの仕組みを理解し、使いこなすための力や情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させることを必要としています。</p> <p>最後に、3点目、学校現場で押さえておくべきポイントとして、校務で利活用する場面では、校務の効率化や質の向上につなげることや、教職員自身がその利便性や懸念点を知っておくことが重要であり、学習活動で利活用する場面では、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべきであり、生成AIの仕組みへの理解や学びに活かす力を高めることがポイントとされています。</p> <p>そして、生成AIの利活用は、教育委員会が制度設計や方向性を示すことが重要で、一律の禁止・義務付けなど硬直的な運用は望ましくないとされています。</p> <p>資料3にお戻り願います。</p> <p>ガイドラインを踏まえ、はじめに、1の生成AI利活用に関する段階的推進方針ですが、市教委では、こちらにお示ししておりますとおり、3段階で推進する方針です。STEP1では、下地作りとして、安全に活用できる生成AIの検討、情報セキュリティ対策基準の改訂、AIリテラシー向上のための教職員研修を実施し、STEP2では、校務での利活用推進として、例えば案内文書や挨拶原稿のたたき台、会議録やテスト問題案の作成を通じ、教材として活用できるか検討します。そして、STEP3では、児童生徒の利活用検討として、年齢制限等の制約がない生成AIの開発や利用状況を注視しつつ、国や北海道、他自治体の対応状況を考慮しながら、利活用を検討することとしております。</p> <p>次に、2の校務における生成AIの試験利用の概要ですが、校務における生成AIの試験利用期間は、令和7年9月下旬から令和8年3月31日までを予定し、情報漏洩リスクの軽減を図るため、入力した構文から、AIが学習しない設定が可能なMicrosoft Copilot（有償版）とGoogle Gemini（有償版）を利用します。また、教職員に対しては、遵守事項として、秘密情報・機微情報を入力しないこと、出力結果を検証し直接利用を回避すること等を周知し、その他の約束事として、市教委指定外の生成AIサービスを指導者用端末で利用しないことや、自己所有のパソコンやスマートフォンで生成AIを利用する場合でも、秘密情報や機微情報は入力しないこととしております。また、市教委では、試験利用期間中、令和8年1月に、生成AIの基礎知識から実践例を交えた利活用に関する教職員研修会を開催する予定です。</p> <p>議題2に係る資料の説明は以上ですが、ここで実際に生成AIを使ってどのようなことができるのか、ご覧いただきたいと思います。</p>
--	---

尾形学校教育 課主査	<p style="text-align: center;"><b>※生成AIのデモンストレーション</b></p>
後藤市長	<p>ただいま事務局から、生成AIの利活用に向けた取組みについての説明がありました。さらには実際に生成AIを使用している様子も見させていただきました。学校現場においては、校務での生成AIの試験利用が始まっております。委員の皆様には、地域住民・保護者の立場から、率直なご意見をいただければ幸いです。皆様、いかがでしょうか。</p>
麓委員	<p>今、生成AIの実践を見させていただいて、行事のプリント作成などの業務は、自分も日頃から行っていることなので、何日もかけて悩むような文章がわずか1分程度でできてしまうことが驚きました。これが導入されれば、先生方の負担が大幅に軽減されるのはとてもよく分かるので、素晴らしいと感じました。このような行事などのプリント作成ではとてもいいなと感じますが、いち保護者として感じたのは、PTA活動も縮小化され、先生たちとの交流も減ってきてているなかで、クラス便りなどのお便りが、自分の子を担当している先生がどんな人でどんな考え方をしているかを知る一つとして、楽しみにしている保護者もいるということを伝えたいと思いました。</p>
麓委員	<p>児童生徒の生成AIの利活用については、私自身がこうした機械に疎いところもあって、漠然とした不安もあって、慎重に検討していただきたいというのが正直な気持ちです。子どもたちの適応力はものすごく高くて、携帯電話の時もあつと言う間に中学生が当たり前に持っているような時代になり、江別市で江別スマート4ルールを作っていたら、保護者にも「ルールがありますので、家族で話し合ってください」ということも散々言われてきましたが、それでもトラブルは減っていない状況があります。AIの利用に関しても、今の自分では想像もできないようなトラブルが起きるかもしれないという漠然とした不安が正直あります。先生たちに対して信頼はしているので、常にアンテナを張って、先々を見てやってくれているとは思いますが、子どもたちが何気なく無意識にキーワードを入力してしまうとか、悪気がないだけに読み取れないところがどうしても出てくるのかなと感じています。親もアンテナを張っていきたいと思いますが、どうしても追いつかないところがあるので、先生たちも大変だと思いますが、常に子どもたちの先に居ていただきたいとお願いしたいと思います。</p>
麓委員	<p>具体的にどんなことが不安なのかと考えたところ、「キーワードを入力してアドバイスをもらう際に、良い言葉と駄目な言葉の分別を子ども自分がつけられるのか」、「知らないうちに誰かの情報が漏れて取り消せない状況になる不安」、「自分で考えてほしい、想像力や構成力など自分の能力を活かしてほしい場面で、AIを活用してしまうことはないのか、また、そのようなことが起きた時に、先生たちはそれを見抜いて指導していただくことはできるのか」などがあります。ですので、そのようなことに対して、どのように進めていくのかしっかりと検討していただきたいと思います。</p>
後藤市長	<p>以上です。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>麓委員からは、生成AIを使うことで先生たちの負担が減るのは良いことだけど、クラス便りは先生の個性が出る部分でもあるため、使い分けも必要だよねという話だと思います。また、このように便利になる一方で、基本が分からぬまま、子どもたちが使っていくことに対しての不安があるというお話をされました。そう考えると、先生たちは子どもたちよりも一歩先に行かなくてはならない、そのことが負担感にもなるのかなという気もします。また、子どもたちが自分で考えることがなくなったら困るというのもあります。そうした面は、今は下地作りをしているところだと思いますが、これらの点を十分に検討していただければと思います。そのほかございませんか。</p>
兼子委員	<p>生成AIの利活用についてですが、麓委員のお話にもありました、下地作りの重要性の話にもつながりますが、一番の懸念は教員間でのITリテラシーの差が未だに大きいように感じます。ICT化によりタブレットの導入は進みましたか、それを利活用する方法も学校毎に差があるように感じます。実際に私自身、各学校にオンライン授業を受け</p>

	<p>持ったことがあり、15校くらいの担当者と打ち合わせをさせてもらいましたが、各学校の窓口でICTの知識に雲泥の差があるように感じました。手取り足取り教えないではない学校がある一方、言葉のやりとりだけで済む学校もあり、大きな差があります。そのため、下地作りとして担当の先生の研修にさらに力を入れていただきたいと思います。</p> <p>また、先日ニュースや教育新聞で出た話ですが、子どもたちに「センシティブな相談をするとき、誰に相談しますか」というアンケートをとったとき、1位が生成AIだったという結果が出ております。第2位が「相談しない」という結果ではありますので、これは我々がどうこう言うよりかは、子どもたちにとって生成AIが既に相談先として存在しているという現実があり、我々の認識も変えていく必要があると感じたところです。先ほど述べたITリテラシーの格差も踏まえると、各校にICTのエキスパートを派遣できるような支援体制も今後必要になってくるのではないかという懸念もあるのですが、その辺はどうお考えでしょうか。</p>
後藤市長	<p>ただ今、兼子委員より、学校間や教員間のスキルの差が大きいのではないかという話をいただきました。また、子どもたちの相談先の第1位が生成AIであるという現状についても、その是非は別として、学校や先生方もレベルアップしていかなくてはならないということで、ICTエキスパートの派遣についてどう考えているかお尋ねがありました。事務局でご回答はございますか。</p>
小椋室長	<p>ご質問ありがとうございます。私も自分の子どもが使っているアプリが日々増えており、知識が追いつかない状況です。まずは大人がしっかりと学んで子どもたちをリード出来る体制を整える必要があると感じているところです。先ほどの生成AIが相談先の1位であることは、私たちも重い結果として受け止めています。このような時代だからこそ、先生方のスキルアップの土台を固めていくことは、生成AIを導入する以前の重要な課題であると考えています。現在、ICT支援員が各校を巡回してサポートに当たっていますが、ご提案いただいたようなICTのエキスパートを派遣するなど、より専門的で手厚い支援の必要性を感じているところです。先生たちがITリテラシーの差で悩むことなく、安心して新しい技術を教育活動に取り入れられるよう、体制を一層充実させ、現場が必要とするサポートを充実できるように力を入れていきたいと考えています。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>学校における生成AIの活用をお話していただきました。確かに教職員の業務負担の軽減を考えると非常に便利なものだと思います。しかしながら、リスクがあることをきちんと理解した上で使っていただく必要があると思います。そこで、業務の軽減や生産性向上とリスク管理を含めた今後の方向性について黒川教育長のお考えなどをお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>当面はまず教職員の活用から始めます。文科省では、「児童生徒が生成AIの仕組みを理解する」や「使える方法を学ぶ」、「積極的に活用する」などを上手に織り交ぜ、試行錯誤しながら少しずつ向上を図っていくことが望ましいとされています。これを受け江別市では、当面は教員の方から活用を進め、来年度以降に徐々に児童生徒にも導入したいと考えております。しかし、先ほど麓委員がお話されたように、例えばAIに対して「暴力の方法」や「性的な問題」、「自傷行為のやり方」など望ましくない質問をした場合にも、AIが答えてしまって、望ましくない回答が示されたりすることがあります。また、個人情報を入力してしまって、それが外部に漏れるリスクもあります。さらに、AIは必ずしも正確な情報を返すとは限らないため、検証する必要があるということを学んでいかなくてはなりません。丸ごと信用してはいけないということを小学校のうちから経験させていくことは相当困難を伴います。そのため、現在全国の小中学校では附属小中学校を中心に生成AIを活用した授業事例が多数ありますが、ほとんどの学校では有償版を使用しています。この有償版では、児童生徒が望ましくないコンテンツを質問しても答えなかったり、入力したものを記録として残さないので個人情報の流出がされないなどの対策がとられています。</p> <p>実践事例を見ると、大変興味深い活用例も多くあります。例えば、AIに対し20行く</p>

	<p>らいの指示を入力します。「あなたは農家です。小学校4年生の質問に対して、4年生がわかるように答えてください。」と設定すると、子どもが「一番大変だったことは何ですか。」と質問するとA.Iが農家の人になりきって答えてくれます。それを今度は農協やスーパーの人など様々な立場の人に変えても、全て答えてくれます。もちろん実際にインタビューすることは大事ですが、これはインタビュー前の練習にもなります。また、「あなたは平清盛です。この戦いの時にどう動いて、どう考えていましたか。生徒の質問に分かりやすく答えてください。」と指示すると、様々な質問に答えてくれます。こうした活用は主に有料アプリで行われており、初期導入費用が何十万円、毎月数百円とか数千円かかります。有料アプリですので、日本中で使うのは難しいかもしれないと思いつつ、こうした様々な質問に対して答えが帰ってくるという経験を子どもたちに提供できるのであれば、自分が授業を担当するのならやってみたいという気持ちも少しあります。ですから、兼子委員がおっしゃったように、教員が常に前向きにいろいろな情報を得て、「ここまでやらせて大丈夫」、「これは慎重にならなくてはならない」といった線引きをしっかりと身につけていくことがますます重要になってきます。このため、当面の教員が活用する期間から児童生徒に導入するまでの過程を、本当に慎重に進めていかなければならぬと考えています。</p> <p>以上です。</p>
後藤市長	<p>生成A.Iに関しては慎重にというお言葉がありましたが、確かにおっしゃるとおりだと思います。不都合なことに答えないようにしていかなければ、どんどん悪い方向に進んでいきます。結局は使い方次第ですよね。道具は便利ですが、使い方によっては凶器にもなるし、自分たちを守るものにもなる。それを子どもたちにもちゃんと理解してもらわなければならないと思いました。ありがとうございます。</p> <p>それでは、次に議題（3）の「令和8年度教育施策及び予算について」に移ります。</p> <p>市では10月に、次年度に向けた予算編成方針説明会を実施いたしました。皆様のお手元にある資料5にあるとおり、次年度の予算編成について職員に説明したところでございます。令和8年度は、「第7次江別市総合計画」の3年次目となり、まちづくりの基本理念として、「子どもの笑顔があふれるまち」を掲げております。この基本理念に基づいた政策を効果的に推進するための「えべつ未来戦略」では、「子どもが主役のまちをつくる」など5つの柱を掲げており、これらに関連する施策を重点的・集中的に推進していくとともに、実効性のある予算措置をしていかなければならぬと考えております。ただ、非常に財政状況が厳しいですし、物価の高騰の影響が非常に大きく、全ての物が上がっています。物を買うのも委託するのも値段が上がっています。創意工夫をしながら財源確保を図らなければならないですし、私たち公務員は、最小の経費で最大の効果を得ることが求められていますので、これを意識しながら事業を推進していかなければならぬと職員に指示したところでございます。教育に関しては、小中学校における冷房設備の整備など、緊急度の高い課題について計画的に進めていかなければならぬと考えております。一般質問の中でも学校の施設の老朽化についてのご質問を議員からいただいたおり、それについても計画的に対応していかなくてはいけないと思います。</p> <p>この予算編成方針については、資料5に記載していますので読んでいただきたいと思いますが、本日は「学校プールに対する取組み」に焦点を当て、皆様と意見交換を行いたいと思います。はじめに事務局から説明をお願いいたします。</p>
稻田学校教育課長	<p>それでは私から、資料6「令和7年度水泳授業の現状」についてご説明いたします。小学校17校では体育の授業で水泳が行われております。15校は自校のプールで実施し、2校は青年センターで実施しています。ここでは、自校のプールで実施している学校的例をご紹介しますが、他校でも概ね同様となっております。</p> <p>まず、1の水泳の授業時数と2の授業でプールを使用する時期がありますが、授業時数は、各学年2時間×5回で計10時間、6月から9月にかけて行われています。授業自体は夏休み前で終了し、9月上旬には6年生の着衣水泳があります。</p> <p>次に、3の指導体制と4の監視体制ですが、指導は3～4名の教員が行い、監視はさらに1名の教員と複数の保護者ボランティアで行っています。他自治体で水泳授業中に児童が溺れる事故が起きていることもあり、できる限り多くの人員を配置することが求められ</p>

伊藤総務課参考	<p>ています。</p> <p>最後に、5の授業内容がありますが、学習指導要領に基づき、低学年、中学年、高学年、それぞれ記載のとおり授業を行っております。</p> <p>私からは以上です。</p> <p>私から、学校プール安全対策推進事業について、ご説明いたします。</p> <p>資料7をご覧ください。こちらは、学校プール・水泳授業の安全対策を推進するための新規事業として、予算要求しております。</p> <p>まず、1の「学校プール施設の現状と課題について」であります、プール施設は、市内小学校17校中15校にあり、プールが無い2校は、青年センターで授業を行っています。15校のプール施設の管理は、水泳授業を行う期間、日常的な清掃や水質管理等を教職員が行っていますが、専門外業務であるため、各校で大きな負担となっています。また、プール施設の耐用年数は概ね45年程度とされていますが、15校中、5校のプールが築年数40年を経過しており、老朽化が深刻な状況となっております。この事業は、ただ今お話しした状況の改善や、監視体制の強化など、より安定的で安全な環境で水泳学習を行うための取組を実施するものであり、まずは一部の学校でモデル事業として実施して、課題等を検証し、その後対象校を増やしていきたいと考えております。</p> <p>それでは、2の取組みの内容について、ご説明いたします。「児童の安全性の向上」のため、3つの取組を行います。</p> <p>1つ目として、授業体制の構築のため、外部指導員の派遣を行います。各校2、3名の派遣を予定しており、この派遣により、これまで指導に当たっていた先生の一部が監視を担当することができ、監視の強化につながります。監視員の派遣も検討しましたが、先生が監視をする方が子どもたちにとっては安心感があるのではないか、そして、指導員を派遣することにより、授業内容のさらなる充実を見込めるということから、指導員の派遣といたしました。</p> <p>2つ目として、プール施設の清掃・水質維持など、日常管理の委託を行います。水泳授業がある期間、毎日1回、水質管理と清掃を行い、授業を行う日については、1日に3回行うものです。この委託により、安全な環境を安定的に確保することができ、また、教職員は、負担が大きく軽減され、本来業務に専念することができるとしております。</p> <p>そして、3つ目の取組として、プールの共同利用等を行います。3の「2つの手法による取組み」をご覧ください。①の学校プールの共同利用と、②の既存の市営プール「青年センター」活用の、2つのパターンを予定しています。まず、①のパターンですが、令和8年度は、2校を移動校として考えています。貸し切りバスで、同じ中学校区内にある小学校に移動して水泳授業を行うもので、授業回数は3回、その他、水難事故防止対策である着衣水泳の授業を行っている実態に合わせ、1回分プラスしてバス代を計上しています。なお、受入校についても、指導員、管理委託の関係から、授業回数は3回としています。次に、②のパターンですが、現在既に、2校が青年センターを利用しておらず、新たに1校を追加する予定です。今回追加する1校については、児童数が少ないため、タクシーでの移動を予定しており、こちらも外部指導員を派遣し、授業回数は3回としています。</p> <p>この3つ目の取組により、施設を集約し、施設維持経費を削減したうえで、移動校、受入れ校の水泳授業へ外部指導員を派遣、受入れ校の清掃・水質管理を外部委託し、安全対策を強化する考えです。</p> <p>水泳授業は、これまで5回行っている学校が多く、この取組により、3回に減少することとなります。事前に今回関係する各校に確認したところ、3回となても、カリキュラムの変更や評価等、対応可能であると了承を得ています。その他、移動時間がとられることや、学校間、事業者等との調整が発生することについても各校の理解を得ており、この事業全体について、賛同を得ております。</p> <p>また、移動校においては、これまで行っていた夏休み期間中の開放事業ができなくなりますので、代替案として、近隣の学校プールを案内するほか、青年センターへの送迎を考えており、その費用を計上しています。</p> <p>予算要求に向けて、事前に対象となる学校のお話を伺っていますが、実施に当たっては、より詳細について調整していくこととなりますので、学校の意見・要望をできるだけ取り入れて進めたいと考えております。その後は、事業結果を検証したうえで、民間事</p>
---------	--

	<p>業者のプール活用も検討し、市内全小学校の児童が、より安定的で安全な環境で水泳学習を行えるよう、事業を展開していきたいと考えております。</p> <p>私からの説明は以上です。</p>
後藤市長	<p>ただいま、事務局から資料をもとに、市内の小学校における水泳授業の現状や今後に向けて検討されている内容について説明がありました。現在プールがあるのは17校中15校で、プールがない2校は野幌小学校と第一小学校になります。第一小学校は、青年センターがあるというところで、第一小学校を建てる際にグラウンドを広くとりたいという要望があり、元々あったプールを撤去してグラウンドにしたという経緯があります。</p> <p>まずは黒川教育長、水泳授業の現場や実態などについて、お話を聞かせていただけますか。</p>
黒川教育長	<p>子どもたちは水泳学習を大変楽しみにしています。私が第一小学校にいたときは歩いてプールに行っていましたが、やはり校内にプールがあることは子どもたちにとっては嬉しいことであり、本当であればそれが一番重要なことだとも思います。しかし実際には、教職員がかなりのエネルギーを費やしているのが実態でして、2年前に「シーズンの始めと終わりの清掃を教育委員会で行います」と会議で申し上げた際は、学校側から歓声と拍手が起こるほど喜ばれたことがあります。それだけかなりのエネルギーをかけてくれていたのだということが伝わりました。なお、今は清掃を外部委託していますが、水泳授業を行う場合は、必ず2回から3回の水温測定、塩素濃度測定、pH測定、そして濾過器の清掃など、本来は専門的な人が行うような業務を、ほぼ毎日教員が欠かさず行わなくてはならず、そのほかプールサイドの清掃やビート板の清掃などやることがたくさんあるため、教員が「正直言ってきつい」となっている現状があります。</p> <p>以上です。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま教育長から、水泳授業の実態や教職員がどう思っているのかということをお話していただきました。それでは、委員の皆様から「学校プールに対する取組」について、忌憚のないご意見などをお聞かせいただきたいと思います。皆様、いかがでしょうか。</p>
麓委員	<p>うちの子もプールが大好きで、水泳授業の日は朝起きてまずカーテンを開け、雨が降っていないか、寒くないかを確認するくらい楽しみにしています。私もお掃除や見守りに参加させていただいたのですが、見守りについては、他の自治体で事故が起こる前は、子どもたちが楽しそうな様子を間近で見られて、お母さんたちと半袖や短パンで、「暑いねー」と言いながらゴミをすくったりするのも楽しく、そこに参加させてもらっているという気持ちで参加していたのですが、他の自治体で事故が起ころってからは責任の重さというものを保護者としても感じての参加だったので、注意は出来ないけれども、「ふざけているだけで大丈夫なのかな」、「先生は見ているのかな」など少し気にしながらの見守りになり、気持ちの面でも大きな変化がありました。それでも、水泳授業はなくなつてほしくない事故があったときに思っていたので、「だからといってなくなることはありません。」と話を聞いたときにはほっとしましたし、子どもたちには楽しく体を動かしてもらいたいと思っていたので、継続していただけることに関してまずは感謝をしたいと思います。</p> <p>そこで、この案を見たときに、いくつか質問させていただきたいことがありましたので、お聞かせいただけますか。</p> <p>まず、水泳授業の回数が減ることに関して、体育の授業では水泳以外の授業も夏に行うのでしょうか。熱中症などが心配される中なので、夏でも水泳以外の体育を行うのかというところをお聞きしたいです。また、気温が低くて中止になる場合が、特にシーズン初めは多いと思いますが、そうした場合の振替は考えていますか。さらに、他校に行くことになった場合、体調不良で参加できない子は、バスに乗らずに自分の学校で体育を受けるのでしょうか。最後に、プールの水の交換の回数は変更があるのかというところも気になりました。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございます。麓委員から、水泳授業の回数が減ることに伴い、水泳以外の授</p>

	<p>業になるのかということ、中止になったときの振替があるのか、あるいは体調不良の子どもはどうするのか、また、プールの水交換というところの話がありました。もちろん、これから考えなくてはならないこともたくさんあると思うのですが、事務局の方で現時点でお話しできることはありますか。</p>
新山次長	<p>まず、水泳授業の回数が減った分については、水泳以外の体育の種目を行うことになります。また、気温が低いときの振替ですが、各学校に確認したところ、今年度の例では、振替が必要なかった学校から、2回振替を行った学校まであり、これらの状況を踏まえ、予備日を2回設けることを考えています。また、体調不良で授業に参加できない子どもについては、学校で対応方針を決めることになりますが、プールサイドで見学し、水泳授業のイメージを自分の中で持つということが考えられます。プールの水交換についてですが、今でもシーズンを通して水の交換は行っておらず、濾過器でゴミをとったり、薬品で水質を管理するなどの対応をしています。ただし、トラブルで藻が発生した場合は、交換する場合もあります。</p>
後藤市長	<p>付け加えますと、水を交換すると水温が下がり、水を温めるのに何日もかかることがあります。そのため、水は常に足してはいますが、交換というのは次長が言われたとおり、藻が発生した場合などに限られています。</p> <p>ほかにございませんか。</p>
新館委員	<p>教職員の方々にとって、かなりの負担になっている学校プールの清掃や管理を委託することは理想的なことだと思います。また、外部指導員の支援も教職員・児童のどちらにとってもプラスになってくると思います。しかしながら、そのような体制になったとしても、担当の教職員の方には、業務を「丸投げ」するようなことにならないよう、水泳授業における児童の様子などをしっかりと把握してもらいたいと思います。</p> <p>そして、一番肝心なことは安全です。昨年、高知県の方で水泳授業中に児童がプールで溺れて亡くなってしまうという事故が起きました。このような悲劇は二度とあってはならないと思います。間違いが起こらないように目を光らせて監視をするのはもちろんですが、ほかに確認作業を増やすような方法も考えてはどうかなと思います。あくまでも私の勝手な例えになりますけれども、授業中も児童同士でバディ的な組み合わせを作って、お互いの児童が意識し合って、常に確認するようなものなど、監視だけではなく何かしら考えていった方が安全性もさらに増すのかなと思います。</p> <p>また、共同利用に伴う移動時間もネックになってくるのではないかと思います。今年度は2時間×5回の計10時間とのことです、今後は移動時間を含めての授業時数となることだと思います。往復の移動や着替えの時間などを考慮すると実際の水泳授業はかなり短くなってしまうと考えられます。限られた時間の中で非常にタイトな時間配分になると思いますので、くれぐれも安全面や準備運動を怠らないようにお願いをしたいと思います。</p> <p>両校の日程の擦り合わせも大変になりますし、スケジュール上でプールの空き時間が確保できなくなることも想定されます。さらには天候にも左右されますので、なんとか水泳授業を楽しみにしている児童のためにも、授業日数だけはしっかりと確保していただきたいなと思います。以上です。</p>
後藤市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>新館委員から、今回検討している内容については、教職員の負担の軽減になり、児童にとってもプラスになるだろう、ただ、丸投げすることだけは止めてくださいとのお話でした。また、何よりも安全が第一であるとのご意見もいただきました。今の安全の確認の仕方、先生同士だけではなく、児童同士で安全を確認できるやり方もあるのではないかとのお話をいただきました。さらに、移動時間の関係や両校合わせた日程調整など、まだまだ、検討すべき課題が多くあることもお話しいただきましたので、是非とも事務局の方でこれらの課題をクリアできるよう、引き続き検討していただきたいと思います。</p> <p>次年度の教育施策については、今後、教育委員会においてもさらに精査されるものと思います。私としても、様々な施策の中において、教育施策は大変重要であると考えておりますことから、本日いただいたご意見を踏まえ、予算編成を進めてまいりたいと思います。</p>

以上で、本件を終結いたします。

最後に、4のその他について、本日、協議したもの以外で、何かございましたらご発言いただきたいのですが、よろしいですか。

それでは、次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がなければ、次年度の開催を考えております。その際は、改めて事務局を通じてご連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。

熱心なご議論をいただきましたことを、心より感謝いたします。

ありがとうございました。

【閉会】